WASON
[illegible]
Oct. 1[illegible]
71,287

女學雜誌

第二百八十七號
明治二十四年十月十七日發兌

「女學」と云へる新學問を女學校に入るべしとの議

婚姻　カークス女史

男尊女卑を論じて和田垣法學博士に質す
文學博士　元良勇二郎
此一篇、引證該博論駁確實にして女學に注意するものは必一讀すべきもの也

おもちや　家政上有益の説

骨相學及びコックリサマに關する最新の説わり。

下六番町六番地　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 287. OCTOBER 3RD. 1891.

EDITORIAL: To Our Coworkers in the Cause of Social Purity. Why we introduce The Study of Womanhood in Our Schools.

THE HOUSEHOLD: Significance of Children's Toys.

NOVEL: Musoken. (II)

MISCELLANEOUS: Marriage (Miss Caroline Clarke.) Phrenology. Table-turning.

OPEN LETTER. To Hakushi Wadagaki on the Subject of Male Ascendency (Hakushi Motora.) Facetiæ.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN

第二百八十七號目次

●社説 廢娼論同志者に檄す（「女學」を各女學校に入るゝの案

●家政 玩弄物

●小說 無想劍（第二回）

●雜錄 婚姻（カロライン、カークス）骨相術、こつくりさま

●寄書 男尊女卑を論じて和田垣法學博士に質す（文學博士元良勇次郎）

●笑草

●時事 對外政策、德育の唱歌、バーテル死す

●女報

The anti-prostitution Society of Japan has passed the notice on the annual assembly which is to be held on the 6th of Nov. and of holding the great lectures for the following two days the 8th and 9th

Although we have no means to obtain the exact number of the foreigners, (including Chinese) who live in Yokohama, yet their approximate number is, we presume to be no less than 2500. Of these the women numbers but three hundred, and the rest with the exception of the missionaries keep concubines either at their own houses or in outside, the object of these women being to bring forth Eurasians, who have greatly increased and have of late become quite conspicuous as they are growing up. They must reach the number of some three or four hundred. The greater number of them are put into the schools and are brought up by the hands of the Japanese women, however they never grow perfect Japanese, as they are educated in English since their childhood and even when they are eighteen and ninteenth of age, they could not understand the Japanese most ordinary literature and at length appear perfect foreigners. Of their boys, we need say nothing as they do not look upon this land as their native country, but go out to their respective foreign lands. But the question is "What should be done to their girls?" They are looked down as something inferior in Europian countries and meet with difficulty concerning their marriages &c. Some of them marry the Japanesemen, some apply themselves as foreign prostitute while others become preachers &c. presenting such pitiful conditions, they eventually throw away the Japanese custom and worship the foreign manners &c. Is it not our responsibility not to look lightly on their lives but to argue upon their interests?

Mr. Hayashi the President of the Yokohama Temperance Society, being grieved with the vice of intoxicating drink in our country, and wishing to do for the cause has offered to paint ten thousand oil picture of Fuji san which cost, 1, 50 each and give them to the Society.

Fujin Tokugikwai (Woman's Society) has published as its organ a magazine called "Joken" (Woman's Rights) no. 1. It is to be issued on every 15th day of the month. Both the name and the style appears to be in vie with the "Jokwan" (another magazine for woman.)

A certain young man of "Nara" desiring, for the benefit of the anti-prostitution Society, to investigate the true state of things at brothels, applied himself as one of their servants; and after half a year's stay, made most minute reports of some sixty pages. We can do nothing but to admire his zeal for the cause. These reports is published at "Keiseisha" and is distributed to those who desire it.

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百八十七號 明治二十四年十月十七日發兌

社説

廢娼論同志の人に檄す

廢娼論は假初の流行にあらず、同志の輩之を唱ふると既に八九年、未だ一日も休めず。譬へば地下の泉、土を徹し巖を穿ちて遂に噴奔するが如く、同志者が熱情鬱勃遂に迸發して全國面に瀰滿せり。輿論一度び聳動してより茲に三年、公娼廢滅の氣運月と共に激進したり。今日の記事を標して昨日の出來事を葬むる所ろの新聞記者も、今は廢娼論の眞面目なるに感激したり。聞けよ同志の人、本年は府下の大新聞中吾黨に助勢するを新約せしもの少なしとせず。醜業者は爲に三の小新聞に黄白を與へ其器關を造らざる可らざるに至りたり。着實穩厚の保守家も、二三の縣知が斷然として公娼を全廢せるに膽を強くし、今は尙早論を改めんとせり。聞けよ、同志の人、本年は保守老實の面々に新たに友を得ん。國會の万能効を妄信せし輩らは、今や落膽して社會改良に轉目せり、社會の惡徳を根治するは、先づ風を矯むるに若かざるに留念せり。聞けよ、同志の人、内務大臣も、警視總監も、國會議員も、敎育家も、社會改良家も、今は大ひに公娼の毒に注目したり。條約改正未だ成らず、大日本人の名聲下落して支那人に比せられんとする時、醜業婦女國辱を輸出し、之を世界の市場に廣告す、邦人之に慨せざるものなし、而して周密なる港門の取締りも遂に効を奏せざるなり。聞けよ同志の人、天下の心は初めて顧りみ先づ眼前の汚穢なる公娼に着目したり。あゝ、感謝すべき哉、我國の大勢は日夜公娼全廢の氣運を醸らし來る。此大勢を看よ、同志の人。此の氣運を察せよ、同志の人。感謝すべし、同志の人。

各府縣に縣會開け、主府に帝國議會開け、一年の政運將に決せんとするの十一月、全國廢娼同志の團躰及び個人、例の如く茲に大會せんとす。各地の報告此に來る、各地の同志此に合す、各地の熱情此に結ぶ、あゝ各地吾黨の士星の如く燦然として此に來り會す。何んぞ樂しき哉。之が爲めに豫じめ準備するの委員に謝す、之が爲めに出京せんとするの代議士を促がす、之が爲に祈る所ろの兄姉に同情を表す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「女學」を講ずるの序

余は明治女學校高等科第三年生が爲に、自今一週一回一年間の預算を以て「女學」を講ぜんとす。左に掲ぐるは、其開講の序の要領なりとす。余は今の女子教育に、此一科を備へ置くとの必要を確信し、願はくは同志の人所々に此類の教科を施さんことを希ふが故に、殊更ら本誌上に公けにして、是非を大方に質すものなり。

（一）明治二十一年の夏田口卯吉君は經濟雜誌第四百十九號に女學と云へる文字を奇異なりとして、論難すらく、

余輩は敢て學と云へる文字の真正の字義を摘出して茲に議論せず日本にては是まで漢學和學英學佛學など云へる場合にも此文字を用ひたれば學と云へる文字は隨分不定のものなるとは余輩も之を許すなり然れども女學と云へる文字は餘程新規なり若し女學と云へるものあらば余輩は男學と云へるものありて然るべしと信ず夫れのみならず青年學老人學老婆學なども有べき筈なりと信ず世間何んぞ老婆學を起とすの人なきや。

（二）余は當時之に答へて女學の解一篇を女學雜誌第百十一號に掲載したり、其大意に云く、

女學は婦女子に關する一科の學問なり。其心身に就て、其過去に就て、其將來に就て、其權利地位に就て及び其現今に必要する雜多の事物に就て凡そ女性に關する凡百の道理を研究する所の學問なりと。

（三）抑そも女學といへる文字は從來未曾有の熟字にして、明治十七年六月余輩が女學新誌を發刊したるの日以來、初て世に用ひらるゝものとなれるなり。當初この文字を創用したるの旨意は、即はち前段說述の趣きに外ならず。然るに此字追〳〵普通となり、遂には女子の學問、又は女子の敎育といへる意義に變遷し、大宮人が華族女學校生を奬勵せられたる御言葉の中にも、亦其意義にて使用せらるゝに至りぬ。文字の意義は漸次に變化するものにして、且つ其變化したるまゝに使用し差支なきものなれども、余は初より女學といふ一種の學問に多少存意あるもの故、當年の精神を其儘にして、此には最初の意義を之に附し、女學といへる一科の學問めきめたるものとして思ふ所を講述すべし。

（四）女學の字解に對する余が答は、當時幾度か田口君の駁論にあひぬ。其他の經濟雜誌、輿論新誌、女學雜誌などは、之がために甚はだ賑かとなり、引て國民の友、讀賣新聞なども、之に一二の評を添ゆるに至りたり。蓋し女學といへる一種の

學問あるやうに言初むるときは、何人も之を不思議と思ふべき筈なり。されど、一般世人が之れを不思議と思ふほどなれば、彌よ以て女學の一科を特標して、その眞理を顯明せざるを得ず。そは、女學の生ずるや、世上の所在境界に女性の分子を忘却し、何事の中にもたゞ男性の元素をのみ主とするを遺憾とするに源いするが故なり。

（五）古より、月は嘗て歎きたるとなし、其歎きたるものはたゞ月に嘯きたる人間なり。花も嘗て怨みたるとなし、其怨みだるものはたゞ花を詠めたる人間なり。秋風のさびしきも、風は自が儘に吹き、絶て自ら嘘唏するにあらず。木の葉の落るも、已がためにて、世の果敢なきを示さんとにあらず。天地万象は翕然として調ひ、その自らに安んずと云へども、たゞ人その間に直立して、面を澁くし心を病ます、歌に云く、

神の惠は草木にさへ　あまねく及び春と秋の
景色もたへに　うるはしかる　中に人のみ罪にけがる。

（六）故に現世は修羅の巷の如く、亦古戰場の跡に似たり、將に戰に臨まんと勇めるもの、戰に負けて倒れたるもの、悲しみ痛みて亡せたる子のために泣くもの、良人の凱歌に耳を聳つるもの、慘虐に笑ふもの、卑怯に泣くもの、雜然として相混ず。玆に緑子を擧て祝ふものあれば、彼所にラケルの歎きあり、銀燭明にして四海波靜の曲を朗吟する聲を幽に、樹陰橋頭より身を投ずるものあり。畑を耕して子孫のために美田を作るの鋤あれば、肉を割き血を塗らんとする兇賊の刃あり。世は實に愁歎物と世話物との劇を一時に演ずるが如く、眞に亂雜不調子なり。

（七）然れども、此は決して人世の自然にてあるべからず。戰ふといふは平和あるゆへ也。憂ふといふは、安きあるが故なり。人世常にかゝる亂雜ありて、而して人の亂雜に安んぜざる所以のものは、遂に人の大に安んずるとを得べき大平和なるもの、當に存すべき事を證明するなり。ベーコン曰く、黄金世界は過去に存せずして將來に存すと。基督の所云る平和の世は、必ず后來に於て實見するとを得べし。

（八）されど此の大不調和の世の中に於て、大に調和を守護し、高く調和の音を發するものあり、即はち愛といひ美といふものこれなり。而して愛と美との形をとりて世に現れたるは、救濟、看護、傳道、教育、ホーム、教會、學校、病院、音樂、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

詩歌、繪畫、彫刻等にして、扨て其姿の尤も多く人の上に現はれたるは、即はち女性なり。

（九）神學者の説に、神は正しきもの及び愛なるものとせり。支那人の説に、天地間に陰陽の二元ありとし、日本人もまた久しく文武を兩道とせり。蓋し天地人の現象には、常に此の剛柔二つの性あり、相須ち相助けて圓滿の相をなすものなり。然るに世開けず人のいまだ進まざるときは、兎角に一方の剛性のみ世に現はれ、他の柔性に隱るゝこと多きものなり。

（十）故に此の柔性を世上に顯はし、他の欠典を補ひて、世を調和せる圓滿の境となさんには、前に掲げたる慈善傳道美術教育の類を盛にするにあり、而して之をなすがための法方の中、尤も實際的にして而して尤も容易なるは、まづ一女性の本質を誘導開發するにあるなり。

（十一）然るに、世人が女性を見るの眼識は太だ淺く、常に之を家内の人となして、廣く女性を万般の事物に紹介するの必要を知らず。例せば、政治經濟の如き活事務、理化學生理の如き諸理學に至るまで、皆な剛柔の兩性あるを辨ぜず、隨て只だ男子のみの學ぶべきものと誤認するもの多し。

（十二）故に先づ婦女子を生理上及び心理上道徳上の諸點より觀察して、男子に對する其關係を研究し、之に相當する教育及び職業の何如を論じて、當然の地位天職の何處に存するかを考へ、之より引て、天地及び人世の愛と美との元素並に其人類に於ける關係等に論及するは、頗ぶる有益なるものと信ず。女學とは、此意義に於て諸科學の學理を一個の目的に適用集採したるものなり。

（十三）凡そ女學校の科程中には、是非ともこの一學科を備へざるべからずと信ず。殊に、今日の如く女子教育の初て行れんとする時に當りては、取りわけこの一科を教授するの必要を見るなり。女子は何如程の程度に教育すべきか、其地位は如何程の階級に置くべきか、諸外國に於ける女子教育の結果、並に現况はいかに、方今日本の女子に相當せる教育はいかなるや等の實地問題はいふに及ばず、抑も女性の天職はいかに、教育美術傳道慈善等に對する女性の關係は何如等に論及し、遂に愛と美との人世に於ける影響を考へて、人情至高至聖なる要求に對する天の則の圓滿に存することを明かにするは、極めて味あることなり。

家政

小供のおもちや

山下石翁

むかしホーマーが筆の跡には、ナウシケアが其家事を終たる時、少女と共に球戯せる趣を記し殘しぬ。この遊戯は、心長閑なるもの也といへば、其國民の發達に映ろひて、天下後世に羨まれけるも道理也。プラトーは童蒙の遊戯、國法に深き關係ありといひ、小兒を育ふには、親切慈愛を旨として、絶て悲哀の念あらしめず、嬉しき鳴物など添て、靜なる寺院に遊ばしめよと敎へたりき。是大方今の幼稚園といふものにも通ふなるに、童蒙の成長につれて、遊戯の方法、嗜好の性質をも考へ見るべし。夫れ、草木の花の實に先ち、學術の技藝より生じ、人智の人の情に後るゝは、世の例なれば、童兒の生ひ立ちもこゝの理を離れんや。其心は、先おさなき遊戯に開けて、慈母良師が誘導の入口となるからに、智性の動く前、其情性は既に萬の感にうかるゝもの也。蓋し、愛の理に先つとは、是なめるに、今の世、誰か先づ、童蒙の智性を開くの過を傳へ初めけん。春風の吹くなる人生の關をも忘れて、無辜の童兒を捕へ、詩趣高觀なき無情の塊血と成果らしむ。世には、童蒙が嗜好の涵養を疎迂にするもの多し。童兒に事物を學ばしめ更に之を誦ぜしむるは難きことならず、只是童兒を敎ゆるの道に非ざる而已。故に、玩具の價値は、唯遊戯を助くるに止らず、深く童蒙の同情に入て、一記不忘の域に到らしむ。凡そ人の感情を傷むる最大のものは、恐怖と哀憐の二なるが、玩具を弄そぶ小供の心には、此二つの患を生ずるとおし。玩具は嬉々たる童兒の感情を敎へ、感情は思想を敎へ、思想は意思を敎へ、遂に清眞の品性をおぐるもの也。試みに童蒙の遊戯を見よ、父となり、母となり、士となり、商となり、其小演劇に歩みて人生の朝照に嬉戯するは、他日渠儕が此の假の境を轉じて眞の境となすの栞とならざることなし。過ぬる年、ビエナ敎育博覽會に於て、セグインがおしたりし報告の中にも、玩具多き國民は、不羈にして觀ずること高しとかや。國風の一端も、これに依て知らるゝこと少からず。おのれ一日國々の玩具を陳ねし商家を訪れたるが、佛蘭西はナポレオンの出し國なれば、其玩具には、軍馬鐵砲のたぐひ多かりき。又其人形の美くしき姿は、流行の風俗にして、風骨と

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いふ者の見ざりしは、華に過たる社會の影なるによるべし。ノアの船といふに、花の窓をつけたりしものありしは、希臘の物語を飾れるラシーンが、オレステスの形見にやありけん。更に質素にして無骨なりしは、獨逸の玩具なりき、住屋家具畜類多く、其人形の精神なりしは、フロエベルの祖國を示せるものなりしか、幼稚園の祖地を語れるものなりしか。其他、瑞西の玩具は農家のもの多きを見せ。支那は古國の故にや、玩具を作るに、象牙木竹の堅材を用ゐ。英吉利にては玩具、繪本より少なけれども、米國の玩具には、かばんの類を多しとす。「米人の腹中に旅行の蟲はあり」といひしは、エメルソンの戲言にあらず。

夫れ、斯の如く、國風の玩具にあらはるゝといふは、隱れなき事實なり。更に人種の發達を考ふるも、童蒙の玩具既に先づ其糸口を引て、獨りトロイの木馬の彈丸に映ずるのみに非ざるなり。人間の自然と戰ひ、萬物に御して波を風雷の天に揚ぐると、童蒙の紙虎木牛に鞭つと爰に其趣の同じきを見ざらんや。されば、玩具は、決して疎迂に考ふ可きものに非ずといふべし。

隨感

愛の德

しのぶ

愛とは神性相引くの係なり。或ひは、眞を愛し、或ひは美を愛し、或ひは善を愛し、亦或ひは人と云へるものゝ靈を愛す、共に是れ吾に存する神の性、他に存する神の性を引くに外ならず。此の故に、眞の愛は必らず敬意を含む、敬意なきの愛は神愛にあらざるなり。人を愛して之を己が爲めにせんとし、もしくは人の靈に利あらざるを知りて我愛を顯はすときは其愛必ず聖ならず。愛は人の益を計り、人を高くせんことを欲せずんばあらず。之を以て、神に依りたる愛は圓滿にして欠くる所なく、遂に疑ひ又は失望することあるなし。神に依らざるの愛は、常にあき足らざることを感じ、遂に憂ひ又た望を失ふにあり。愛を知るものは神を知るべし、愛あるものは神に和らぐことを得べし、愛に滿つるものは、神と伴なふことを得べし、六合天地、億兆衆庶悉く吾に逆らふことなし。そは、神と一躰あるがゆへなり。未だ神を見しものあらず、我等もし互ひに相愛せば、神われらの中ちに居て彼れを愛する愛を

六

我儕のうちに全ふす、かれ已に其靈をもて我儕に賜ふ、是に由て我儕の彼に居りかれの我儕に居ることを知る也。

慰藉奬勵の秘義

方寸子

慰められんことを欲する、敢てわが心に安心のあらざるが爲にはあらず、勵まされんことを望む、必らずしもわが裏なる人の弱きが故にはあらず。われは悠乎として安んずる時にも、猶ほ慰めの同情を喜こび、鬱勃として熾んなる時にも、而かも勵ましの同感を好む。

されば、慰めとは、樂しき者が哀しむ者に對することも定まらざるべく、勵ましとは、剛き者が弱き者に對するものとも限らざるべし、言換ゆれば、立派なる者の後進に於ける愛憐、若しくは、大なる人の小さき者に對する同情とも限らずと謂ふべし。

蓋し、大なる人とは、吾れ能くわれを主配する自治の人なり、故に彼れは獨立自力に由りて自からを慰め亦た勵ます。立派なる者とは、愛と信と望みとに屬ける德善の人の謂なり、故に彼れは卑くき同胞の高めらるゝをもて慰さみ亦た勵む。されど、彼らは猶は一つを欠けり。受動的の慰藉奬勵これ也。

母は家内の憂きと繁きに、人目を忍びて己が室に泣き居りしが、玆年四才の男の兒、チヨロ〱と入り來りて立ちどまり、暫し呀ぼと呼吸とを殺して急かに聲を高め、「靜御前は泣く〱烏帽子取り寄せ」と、廻らぬ舌もて謠ひだしける。ハツト氣注きて涙を隱くせば、近よるわが兒、うな垂るゝ母の膝下に居座はり、兩の手つきてソト顔さしのぞき、「かあさま、ナニ………泣くの………」。

誰れか謂ふ、力ら足らずして慰むる能はずと、誰れか謂ふ、德及ばずして勵ますに足らずと。愛ふる者よ、來りて此の頑是なき稚な兒の如何に母を慰め勵ませしかを見よ。無我にして純潔なる、眞率にして無邪氣なると、稚な兒の如くんば、先生も父母も、義人も偉大夫もアヽ何人か爲めに感動せざらん、感じて慰まず、動きて勵まされざるもの、何處にかある。若し夫れ、我ら至極を盡さんか、未だ小さしと雖も既に偉たる也、さては盡せ、天眞爛熳として、力らの有らん限り、心の及ばん限り。友よ〱、彼の貧しき寡婦のレプタ二つを。來りて學ばん哉、悟りて盡さん哉。

雜録

婚姻

カロライン、カークス述

左に掲ぐるは、女史が其友の許へ婚姻を論じ遣せし文通を譯したるものなり。
女史は今后折々本誌上に其論文を寄らるゝことゝなりぬ。

こんいんは、人の私情に出でしものにあらずと覺え申し候。せいしよにも、神はじめよろづのかしらに男をつくり給ひしが、男のみにてはよろしからずとて、さらにその血をわけて女をつくり給ひしよし。されば、男は女のとも、女は男のともにして、まことに夫のおん配偶どぞんじ候。神は人情のはじめにまづ妹背のみちをたて、あはせて一躰となし給ひたれば、死よりほかにこの縁をきるべきものは御座なく候。これこんいんのはじめ、理想のさかひに候へば、子孫をふやすと申すよりも外に、夫婦偕老のたのしみ有之、もどを問へば、おかの他人に候え共、夫婦ほどの友達は、凡そこの世にあるまじく候。魚は水ありてすみ、貝は二の殻ありていくるためし、男の陽性は、女の陰性をおぎなひ、女の陰性は、男の陽性をやはらぐる、天地の道理にうたがひこれなく候。妻はたゞ獸慾のため、子孫をふやすため、朝夕の衣類、三度の食事、下女下男のしまつのためとのみ思ひ、天にも地にもひとりなる親友を、めしうど同様におもひかゆること、かへす〱も殘念のいたりにござ候はずや。キリストのおしへの、ほか〱の宗旨とちがひ申し候は、こゝにてわかり申すべく候。はじめ、人の「ユーフレーツ」河邊にすまい致し候ところより、これも無識のゆゑにや、ひと〱ちくしやう同樣のつみにおち、離縁のさたも世のつねと相成り、モーセのごときけんじんさへ、惡根をたち候こと、かなはざりし由、ものゝ本にも見え申し候。「ユダヤ」ほどの神國にも、おらるゝおぼへなき婦をさるためし多かりしと申し候得ば、神をしらぬくに〱にとりては、めづらしからぬことゝはぞんじ候。およそ世に夫婦妹背の縁のまことを見せしは、キリストが神のおきてをときて、世の道をさだめたまひし時に候べく、婚姻のだいも、此時にたち申し候と覺え候。されば、キリストの御言葉にも、姦淫の故ならでその妻をいだし、ほかの婦をめとるものは、かんいんをおこなふなりとぞ。いか樣に惡事のはびこる世と

申せども、無限の大道は、はじめより人のこゝろを貫き候得ば、わけもなきに妻を去る男と内心は、さすがに理にとがめらるゝことは御座候。さ候へば、キリストのみをしへのつたわるところは、男女の位置をたかくすることに相成り候。人はばからず妾をおき、おもふまゝの亂行も、はづる色なきようの風儀になりゆきては、世の行末もおもひやられ申し候。きようかいのキリストよりいでしごとく、女は男よりいでたれば、キリストのきようかいを、愛し給ふごとく、夫は妻を愛すべしと、使徒のふでのあとのいましめ、いまさら申すには御座なく候得共、たれもおのれを愛せぬものは候はぬに、夫がその肉身をわけたる妻を愛せざるとは、如何なる義にや候べき。生の門をいでゝ死の門にいる浮世のたびぢに、ただふたり苦樂をわかつといふは、なみ／＼の縁にもあるまじきを、キリストの御心もなをざりに致し、一生のおちどと相成り候こと、のちの世のほぞをかむ種と見え申し候。こゝに難題といふは、信者の不信者とこんいんをとりむすびて宜敷やいなやといふにござ候。男にでれば女すみ、女よへば男さむると申す様にては、身命の一躰おぼつかなくと、たれも存ず可きことにござ候。男みぎと申せば、女ひだりと申す様なるこんいんは、決してよろしかるまじくとぞんじ候。さ候得ども、ポーロの申せしごとく、ふしん者の妻にて、神を信ずるものも身勝手にはなれんと致すはよろしからず、しん者となれるほどの志あらば、身をつゝしみて徳をかさね、夫をも御道にみちびく堪忍は致すべきものと存じ候。それも夫より去れといふときには致し方あるまじく、天下はれての宗教を信ずるに、はづかしきいはれ候はねば、御道をすてゝも夫にすがるといふは、未練といふものと存じ候。こんいんのゝち、妻のしん者と相成り候もの、いかなる心の用意あるべきやとたび／＼人のもとより申し越し候が、これは一々申し上ぐるわけにも参るまじく候得共、をとなしく義理をわきまへ、萬事しんせつを盡す方しかるべしと存じ候。愛はもとなりと、ポーロも申し候。本心に愛あれば、神にたいし、人にたいし、つくす可きとも、おのづと知れ申すべく候。しん者にて人の妻となれるものゝ一歩さきは、くらやみなる世に、途をてらすものは、この愛の火より外にあるまじと存じ候。前にもまほすごとく、こんいんは、かく神のむすびたまひし縁にで

ざ候に、いかなれば、世の男は、折もあらばこれをやぶらんと、存ずるにや。神のおきてを蹴ても、けがれたる自由をこの上なきものにおもひ、正路のきこえぬをよきことに致して、おのれらの情慾のみをみたさんと、魔界におつるをわすれ居り候。世にキリストのおしへのおこなはるゝ國にて、こんいんの法をやぶるもののあるはいかにぞ、おもふもの少からず候。まことに御教の國にても、かんいん、ふぎ、りえんの沙汰おほきは、おそろしき事實にこれあり候。いづれの國の人とても、人にかわりは候はず。罪惡のはびこり易き世のためしあれど、たゞこれを惡むと、惡まざるとの相違は、たしかにこれあり候。「イギリス」にいふめいなる大政事家これあり、その人こんいんのおきてを破りたりときこへ候ところ、たちまち世間に身をいるゝばしよをうしない、いたるところのものわらひと相成り申し候。さ程にも、正義をおもんじ、名をゝしみ、こんいんのおきてをかろしめざる國風は、うらやむ可きことゝ存じ候。とても、人目にかくれて、風儀をみだる様のことを致し、自分にけがれたる落度のありては、他人のことをかれこれと申しがたきは勿論に御座候。不義のほか、夫婦のりえんを禁ずる神のおきてを、道徳のくにざかひにたてゝ、一家の和樂をもとめ、國のもとひをかたく致すと、かへすゞゝも大切にぞんじ候。みかけのみをこんいんとは申さず、家のうちに嫉妬の風ふき、怨恨の波のあらゞゝしき様にては、浮世の詫しさのみ心に砕けて、夫婦のまどに明月のさし入ることもかなふまじく候。されば、こんいんは、世にたいせつなるものとぞんじ候也。

こつくりさま

三足の盆踊り揚り、圓卓の台回り出すの珍事、前年コツクリと稱へて、一しきり世に囂しかりき。其の大方の道理は、カーペンター氏が精神生理學などに說きたれど、何ほ訝きと少なしとせず。近頃ろ、英國の心理研究會にて報告したる者の、中には、一寸不可思議の事實を多く集めたり。其の事實を確かに見たる人は、愚夫愚婦の面々にあらで、堂々たる牧師、學者、軍人の類ひなれば、事を僞はり又は恐氣立ちて幻に夢みるが如きことなきは必定なり。然るに、或る時死せんとする人の傍にて靜かに祈りしける折、三尺餘り離れたる所に置き

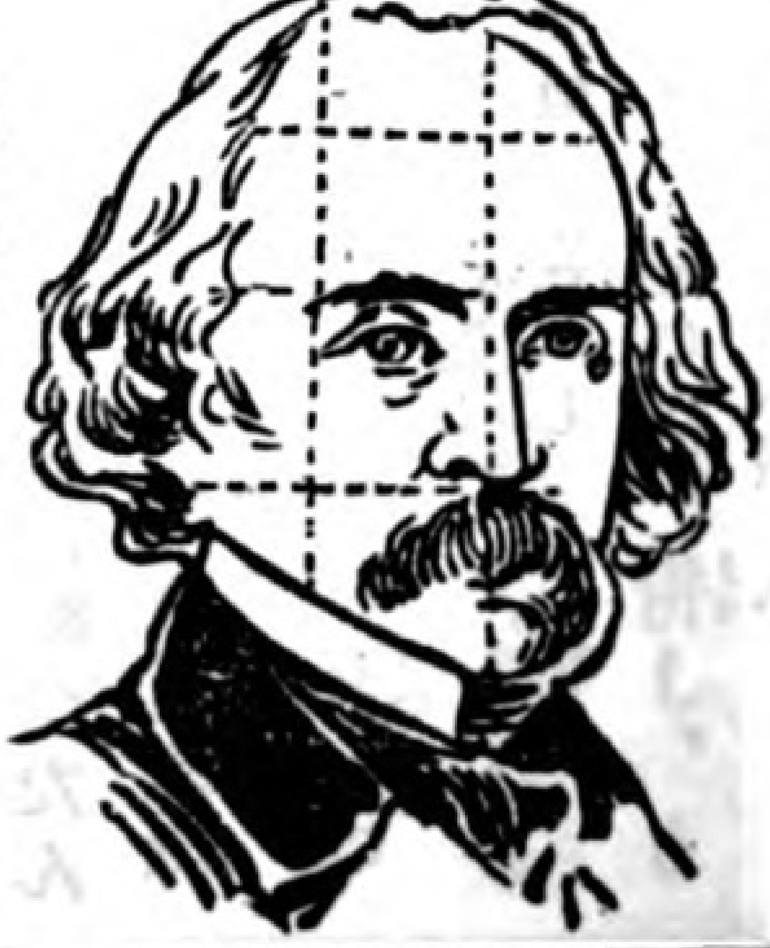
し小さき机自づと片足を擧げ、上に載せたる藥を覆したり。又或る家族團欒して物語しける折、遥かに離れたる席にある机、人決して手を觸れざるに亦自づと躍り出せり。又或る所の机は同じ様にて少し歩き出したりと。此類の事實一々證人の判然たる名を擧げ、時日を示して、明證したり。尋常人の世話物と異なり、一の學術會が不思議として研究するに至りたる者ゆへ、實に不思議中の更に珍らしき者にてありける。

骨相學

「探偵淵規」と云へる書の著者は、骨相學今一層開けて善惡の相貌を更に容易すく示せよかしと願へり。此の願ひは、教育家も、事務家も、亦均しく冀ふ所ろの願ひなりとす。魏の國の曹操曰く、汝等近づいて曹亟を見よ、目四つあるにあらず、口二つにあるにあらず、只だ智慧あるのみと。固より目は二つ口は一つあるべし、左れど其位置によりて、骨相に異同を生ぜんと、蓋し疑ふべきにあらず。

ゼームス、コーテス氏と云へる人、心理學叢書の中の一篇として、近頃「骨相學、讀面術何如」と云へる書を著はし、多くの名家の氣質を其顔によりて判斷記載せり。パーチルに付て曰く、彼の顔は、人を支配せんとを望み頗ぶる野望あり氣なりと。ロード、ロンドンデルリーに付て曰く、やゝ女らしく、やゝ縟禮に過ぎ、英才の相に乏しと。ナサナエル、ハウソルンに付て曰く、彼が顔は、尤とも智深く、德高く、華やかなる雛形なり、頓智あり、温和にして、人を損ぬるとなきの相ありと。扨て、其相の見方は、兩つの眼尻を横に、顔を半分に區切り、其上下を以て顔の半面となし、此の上下略ぼ同じほどに釣合ふを最上とす。斯る顔の人は、智德をもて心を制し、行潔白なるべし。然あらで、上の方の割合に小さきは、外情に制せられて、心の取締薄き方なり。第二圖は馬鹿なり。第三圖は家の仲間なり。

第一圖



第二圖

第三圖

○手當違ひ

此頃の大雨を犯して、親類許より歸る婦人、濡れそぼくれたる車夫に、

おまへとんなに濡れた時はなにか手當をするのだらうネ？

車夫殊の外悅ばしげに

へ、イ。へイ、必ず頂戴いたし升ので。

婦人「さうだらう、是非さふしなければ、續くまいからネ。

車夫「イヤ、併し、あなたの樣にさう御深切に仰つて下さる方は、誠に勘ふ御ぜいやす、イヤ、有がたう御坐やす。

と揖棒を降ろす車夫に、紙入より取出して、そんなら、これを上るから、宅へ歸つて寐るまへに湯でおふがりと湧出す物は、ヤナ九二つ………

婦人はくゞりを這入つて、跡をピッシヤリ、車夫は手當をとり違へてぶつちやうぶら。

○情に於て忍びず

十日程まへ、田舎より荷物售に來りて、片がに生たあひ鴨二羽抵たり。向ふの家の主婦窓より首をいだし、あひ鴨一羽買はんといふ。百姓是非二羽とも賣り度しとて、容易に承知せず。主婦據なく二羽買ひ、付ては是をしほに、祝ひごとを取越せんとて、調理して親戚、朋友を招待しぬ。さて一同膳につき、時節柄結構とあひ鴨一ッ口に入れたる客人ども、何れも剖分嚙切ると出來ず、全く太皷の革の如くにて、果は主人夫婦もそを知りて非常に面目を欠きたり。昨日は例のお百又ヒヨックリト、つけなく\〱と呼んで窓下を通りぬ。主婦早速に呼止め。

オイ、一寸、おまへさん、こないだは又どうしたもんだ、あのあひ鴨は、おまけに一羽買ふといふに、どうしても、二羽ともになんて賣りつけてさ。

なんでかすか、あのあひ鴨でがすか、ありやあネ、廿五年も一應にそだつてたんでがすもの、今さら、別\〱にするのもあんまり不人情の樣です、それでツイ一處に願つたんでがすよ。

批評

欄內は本號閉者の都合により次號に廻し次號には在週來淺筆特評其他を掲ぐべし

小說

「流の歎」は序段五回正に了り、之より本段に入り、多少讀者に示すに足るの波瀾快事あらん。

兒籃

小公子　第十一回（丙）

若松しづ子

小フォントルロイの噂をした者は、貧民や、百姓たち斗りでなく、まだ外にも傳へ聞いたものが有升た。其評判する者が多く、又其容色の好いと、氣立の優しいと、人望のあると、侯爵を左右する權力のあつたとなどに付て一口話の世間に流布まつてゐるとが多いので、其噂が田舍住ひの紳士の耳へまで這入り升て、其名の遠く及んだとは、英國中の一郡一鄕に限られませんかつた。宴會の席には人々が其話をし合ひ、婦人たちは其母を憫然と勞わり、其子が評判ほど容色が好かなどゝ心配し、男子たちの方で侯爵の平常を知つてゐる者は、其息子が御前の慈善心を信じ切つて居る話をしては、抱腹しました。

ある時、アッシヤウ、ホールのサア、タマス、アッシといふ貴族が、エールボロを通ふり掛つて、フト侯爵が孫息子とも〲馬に乗つて居らるゝに出逢ひ、乗物を止めて、挨拶をして御血色の打て變つて好くなつたと、酒氣症の平癒をしたとを悅びに申し升た。あとで此人が其時の話しを人に語つて、

イヤ、其時、御老人も餘程天狗になつて御座つた。併し、さうあらう筈ですよ、孫どのがあの容色と品格じやア。僕などもあゝいふのはとんと見た覺へは御座らんからネ、骨柄の立派なと、そして小馬に跨がつた塩梅は、丸で、騎馬武者かなんぞの威勢でネ、

この通り故、ロイデール夫人も追〲に其子供の話を聞込み升た。其話しの内には、彼のヒッキンスのとや、跛の息子のと、エールス、コートのと、其外に何さま〲有升た。それ故、どふかして、其子供を一度見度と思つて居た處へ、突然、城主から、良人とも〲ドリンコートへ御來遊あれといふ書狀を得て、並〲の驚きでは有ませんかつた。

誠に夢の樣ですと、あの小息子がとんと魔法でも遣つたかの樣に物事も變へたといふ話しでしたが、これを見ると本當かと思ふ樣ですネ。私の兄弟は子供に夢中で、少の中も見ずに居られない程だと人が申し升よ、さうして、余程の自慢ださうですから、矢張り、私どもにも見て貰度のでせうよ。

といつて、早速招待に應ずる旨を申送り升た。

さて夫と共にドリンコート城へ達し升た時は、はや夕日が西に入る頃でしたから、直ぐ用意の間へ通り、兄弟に逢はぬ中に、裝服を繕ひ、客間へ這入り升と、暖室爐の前には侯爵の嚴しい姿が見え升た。其側に黑天鵞絨の服に、立派なレースの襟飾りを着けた小さな兒が坐つて居升た。この小息子の丸いさえ〴〵した顏が殊に見事で、夫人に向けた眼がいかにもあどけなく、美しかつたので、驚ろきと嬉しさで、思はず聲をたて升した。それから、侯爵と握手する時分に、ともに子供であつた時分から、絕へて用ゐたとのない幼名を呼び升した。

オヤ、モリノーさん、あれがお話しの子ですか？

イヤ、カンスタンシヤか、その通りだ、これ、フォントルロイ、貴樣の大伯母のロリデール夫人だぞ。

すると、フォントルロイが、

サウ、大伯母さん、御機嫌はいかゞ？

いひ升と、ロリデール夫人は、其方へ手を載せ、暫時上へ擡げた顏を眺めてから、大層可愛いといはぬ計にキスをし升た、

わたしは、おまへのカンスタンシヤをばだよ、おまへのおとうさまは、わたしの秘藏だつたが、おまへは亦大層よく似ておいでだよ、

僕、とうさんに似てるつて、いはれるの大好ですよ、ダッテ、みんなとうさんが好だつた樣ですもの、かあさんとおんなじこつてすよ、みんなに好かれて、丸でかあさんの通りですネ……カンスタンシヤをばさん、(と少し口籠つて)

ロリデール夫人は大悅びでした。又も一度下を向いて、キスをし升て、その時からは、兩人が誠に親くなり升た。あとで、兄に向つて、人知れず、かふいひ升た、

マア、モリノーさん、こちらで注文したつて、これに越したとはありませんネ、

侯爵は、いつもの浮かぬ調子で、

おまへのいふ通りだ、中々見處のある奴で、大分おれとは仲よしだ、おれを此上もない氣の好い、慈善家だと思つて居のさ、それはさうと、カンスタンシヤ、おれが言ずと、キット知るとだから、先へ白狀して置が、實はおれも、あれにかけては、いくらか、子供返りのした老翁になりさうなんだ、

ロリデール夫人は例の率直な調子で、

それで、あのお袋はあなたをなんと思つて居り升。

侯爵少しく顏を顰めながら、

まだそんなことは、尋ねて見たことはなしだ。

さうですか、先遠慮のない處を始めつから申上て置升がネ、わたくしは、どうもあなたの御處置に不同意ですよ。デ、わたくしは早速エロル夫人を訪問する積りですから、若しあなた御異存がおあるなら、おつしやつて頂戴したう御座い升よ。どうも評判を聞升と、子供の人となりも全くあの婦人の敎育ひとつで、あの通りだと思はれる樣ですし、御領内の民たちも神樣か何かの樣に尊敬してゐるといふ噂が、ローリデール、パークに居てさへ聞え升もの。

侯爵は腮でフォントルロイの居た處を指し示して、

ナニ、此れを崇拜してるのだ、併しエロル夫人も一寸美人で、其容色を子供に遺傳した丈は忝く思つて居るのだ、おまへいつて逢ふなら、差支の有る筈もない。たゞコート、ロッヂに引込んで居つて吳れて、おれが對面するとさへ、御免蒙れば、それで搆ひはないのだ。

と仰つて、また少し眉を顰められ升た。夫に向つて此後かふいひ升た。

併しネ、先ほどはあの婦人を憎んで居ない樣ですよ、わたくしにそれ丈は分つて居り升。そしてネ、あの人も多少變つて居り升よ、そして、不思議な樣でも、あのおどけない、人懐こい小息子のお蔭で、どふかかふか、人間ら敷されて行く樣だと思ひ升よ、マア、あの子が亦た旒の樣に懐いて居るのですよ、坐つてる倚子のそばだの、膝だのへ凭れ掛つたりしましてさ。兄の子供たちなぞは、虎のそばへ寄添ふ心持でなければ、あんなことは、出來ませんでしたらうよ。

其翌日は早速、エロル夫人を訪問に行ました。歸つてから、兄にかういひ升た。

モリノーさん、マアあの夫人の樣な樣姿の好いのに、私しは逢つたとが御座いません。聲といつたら、銀の鈴の樣にさえ〲してゐて、そして、あの子をあれまでにしたのはあの婦人の功名ですよ、余つぽど禮を仰しやらなくちや。あなたが仰しやる樣に容色の好い處を譲つた位なとじや有ませんよ。そして、あなた、勸めてこゝへ入れて、何かの取

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

締をしてお貰ひなさらないのは、大間違ひですよ。私はロリダールへ呼とらうかと思ひ升ワ。

あの子を離れて、どこへ行くものか。

そんならば、あの子も一處に連れて行なかつちやなり升まいよ。

とロリダール夫人が、笑ひながら言ひ升たが、併しフォントルロイは、中々自分に預けられるとゝなとないとは、充分承知してゐて、祖孫の間がいかにも睦まじく、殆ど離し難いと、傲慢、頑固な老紳士の將來の希望も、愛情も、一に其子供一身に集つて居て無邪氣、優愛なる此子供が此上もない信任と忠實を以て其慈愛に報ひて居つたとを日に〳〵承知し升た。

その外、今度宴會を催されたのも、自分の孫なり、跡取なりを世の人に示して、兼て人の評判に躍つた其子供が、噂に勝る人品と人々に知らせ度が最大目的といふとも承知して居り升た。

ピーヴィスや、モーリス(侯爵の子息)は、いかにも新聞のわるい子供でしたからネ、誰も知らぬ者は無いのでしたもの、可愛がる處ではなく、親ながら憎くゝなつた樣子でした、それに此度は又、大威張りに威張れるといふのですから、

と夫に申し升た。此宴會に招待を受けた人の中で、フォントルロイ殿を見度く思ひ、此宴會に出席するだらうか如何だらうと思ひつゝ來ない人はない位でした、侯爵は此時に、

行儀はよし、人の邪魔なるとなどはあるまい、子供といふは全體馬鹿でなければ、うるさいものだ、おれのなどは兩方だつた、併しおれ丈は人に物を言れゝば、返答もし、さもなければ、默つて居るから好い、人の氣障りには必ずならん奴だ。

と仰いました。

小公子は意外の愛讀を得し諸君の勸告斜ならざるにより從來本誌に掲げたる者を精く校正し挿畫の銅版圖を加へ今月末より出版發賣せんとす。

無想劍

晴光子

第二回　拔放つ白刃も冴えし山寺の月

茂林深くして苔は火宅の塵を拭ひ鳥の聲稀れに聽えて世外の觀念に響く、花も紅葉もなけれども纔に殘る白露に悟り顔なる庵室ありけり、傾きたる柱の聯見れば

大道沒遮攔進レ步直登兜率殿
法門無內外翻レ身投入旃檀林

古色深き黃蘗派の文字に道話現はすも與床し、看經諷經の聲常に絕え勝なれど一人の老僧寂々と音もなく住み居れり。或は寂寞として死灰の如く維摩の室に默然として瞑目する事ありと思へば、又怡嘻として活火の如く樂天の境に肅然として道を傳ふ。

今日のみは方丈の塵も動きて珍らしく室に人聲湧る、架樋の音に片破れ月を宿らして端居せし客と主人、後ろ手に身を凭らして笑しげに月に向ふは鬚白き老僧なり、之れに向ふて盤石の如く儼然と坐したるは眉引上りたる壯丁なり、亂れ咲く萩を風に任せて頓着せねど、さすがに虫の集鳴を妨げじと話しの聲も靜かなり。老僧は膝を叩きて

「閑亭の客人ナ、イヤ感心致すヂヤ、西道場へ一日も休まぬ武藝三昧、女子には又變りものヂヤナ、先夜もナ、水垢離取る音に目覺めて出て見ればアノ殿江ヂヤ、何の心か知らぬが感心なこと……和殿は又彼樣な立派な處女を、何の譯で此山寺へ賴みに連れて參られたのヂヤ

壯丁は冷然として庭打ち眺め

「譯あッて不愍と思へば……

「ナニ、確と不愍に思やるか……和殿とは心措きない拙僧ヂヤ、不愍と思へば賴みがあるぞよ……言ふまいか

「言へ、何事か

「妻女にせんかと言ふこと

壯丁は勃然として刀柄打鳴らし

「無禮ナ、拙者を不義惰弱の腰拔けと見たか、野心あッて不愍を掛けしと思ふか、チッ汚らわしい其言葉、僧の身として奇ッ怪千万、戲れ言も許さぬぞ、コレ腰を見ろ、錆たか〱

老僧は冷笑むが如く打頬笑み

「若い〱、怒らずともの事よ、情けを知らぬが武士

の旋纈と思やるが笑止千万、腰抜けとも見へぬが腰抜けぬとも見へぬ、アハヽ、錆たか錆ぬは抜けは知れるワ

「ナント……閻魔の鬚引き裂き呉れん、和尚覺悟ッ……サア此光りで旋風の眼前を何と見た

「何とも見ぬ、人の肉斬り人足位いの者ヂヤナ、人間は旋風の名前位ひで威張るのは大痴愚、それヂヤから武士の本値が下タのヂヤ、和殿は存外武道に未熟ヂヤナ

抜放ちたる白刃の下に自若として秋の葉末ほども動ぜず、鐵の髯掻撫でゝ端坐たれど自然と身の搆へ寸分の隙なく、柔和の眦慈悲の色變らねど一閃の眸子輝きて恐ろしく睨まる、俊吉郎も達人なり犯し難きに嘆服しけん、暫し覘ふ互ひの無言を、刃亘る月の光りに破りて凄寒き白刃を納め、無手と坐して面を和げ

「心わりげな和尚の廣言、武道に未熟とは智ある言葉、宗旨違ひの談義聴かせよ

老ひたる膝を整へて嚴かに容体を改め

「和殿は武藝の達人なれど未だ三昧に入らぬと見へる、武藝は柄者持つ間だけの技なれば、和殿の手足だけが旋風で御座ると誇りても風間某といふ『我れは』大勇者とは申せぬ、今の人士を見られよ、文藝に流れたる臆病者と武藝を弄びたる粗暴者との片輪者ばかり多くて、道といふものを學ばぬ世の中、拙者勇士で御座るの、豪傑で御座るの、學者で候物識りで候のと驕誇す名利の奴あるも無理ではなし、兎角武道か文道かに三昧を凝らし人道にまで達せずば、あたら形骸の武士で終るまでぞや、武道を別物のよう思ふは恐あり、武の藝といふもので苦學難行して、人物の道を修練することは拙僧の宗教と違ふ所は御座らん、武より練りて士道を得、文より練りて儒道を得、宗教より練りて人道を得るといふものは皆名が違ふばかりで同じ事ヂヤ、喃、風間殿聴かシヤレ、爰ヂヤ、結局眞の武士道と申すは眞の人物の道ヂヤナ、去らば眞の人物とは何かと言へば、誠義剛勇で情けに微やかな人、義と愛とを兼ねた、所謂威ありて猛からぬと言ふ人でなくてはならぬ、弱きを助けて強きを挫くといふは義勇の第一ヂヤナ、女子の弱きを取り得にして賤しめ、侮んじては之れを凌ぐこそ大臆病ヂヤ、人情に微やか

にて人を慈むこそ愛の第一なるに我れを戀するとか妻女にせよとか聽きたりとて、汚らはしきことやある、情けもて人を見、深く人を戀する程にならずば、形骸の勇者消化して沈勇大度とは成れぬものジヤテ、何と風間殿、あたら武勇の腕前を强兵に止め召さるかな、將に將たるの勇將となる望は御座らぬか、いかゞカナ

沈默勝ちなる老僧が、耳愕かす滔々の辨舌に醉へるが如き俊吉郎は、鐵壁と賴みたる吾本城の武道を突かれ、鐵如意の一擊にアワヤ豪放の膽を打碎かれしが、毅然として襟を正し

「和尙の高論感服の他なし、俊吉郎不肖と雖とも先生が武の感化に男と成り『氣は早く心は靜か身は輕く目は明らかに業は烈しく』との境を拔け出で、理想は武道の三昧室に坐すれど、何かにせん至誠足らずして未だ吾れ行ふこと出來ざるのみ、和尙の論は高けれども一片の理想論に過ぎざることなきか、理想は動もすれば空想に流れ易し、吾れ行ひ得ぬことを最も恥づ、十を想ふて一を實行し得らるれば好し、百を言ふて一をも實行し得ぬこそ卑怯空辨の白痴のみ、和尙の德は高潔なり言ふも宜し、拙者にして戀の事など語らふは吾が良心の潔しとせざる所なり、願くは和尙言ふ事を用捨せよ

老僧は莞爾として顏打まもり

「イヤ早や、頑固な分らぬ事を聽くものよ、戀とは色慾痴情の事にてはなし、人類が高潔な愛心の最大無垢の物で、愛は仁の多博なるものジヤテ、和殿が武士の骨髓とする五常の一つを潔しとせぬものを世に又立派な武士と思ふてか

俊吉郎は默然として吼かんとする獅子の如く、老僧は靜かに睡れる虎に似たり、夜も老ゆきて鐘の音さへ聽こへずなりぬ

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

時に怪しいかな、草むら茂き墓場の方にあたりて、パッと明るく成ると見る間に、朦朧と白く立上るものこそあり、鬼魂か、白き人影か、二人の話しも打絶へて閑寂たりし夜氣の荒れ庭、虫の聲のみ澄み亘れり。稍々訝り見たる俊吉郎は突と身を起して一聲高く

「拙者見咎けん、何者なるか

「シッ、靜かに…………

閑　書

非男尊女卑を論じて和田垣法學博士に質す

元良勇次郎

此頃世間にて男女の關係に就て男尊女卑或は於轉婆或は女子の不品行等の語又他方には女權挽回ある語流行するが如し、回顧すれば古來日本の風俗として從順、節操、貞實等を以て婦人の德と爲し高等の教育を要せずして唯家内の取締客の待遇等を以て充分と爲せり、然るに西洋と交際を始め種々新らしき考へを輸入せしと共に日本舊來のものと大に異なりたる男女交際法、男女同權、女子教育等の考へをも輸入し來り之に對する世人の意見區々に分れたりと雖も女子に教育の必要なることは世人一般に之を認め女子をして教育を受けしむるに至れり、然るに女子の教育上より來る所の弊害亦少なからず、爲めに教育家をして種々の說を懷かしめたるは其責女にあり、又男女同權論の家政上に及ぼす影響少なしとせず、從來日本の習慣に比較するときは多少男子の威權を抑ゆるの必要あるより不快の感を惹起せしことも少なからずと信ず、或は又夫れよりして種々弊害を生じたることも多かるべし、彼此の事よりして男女同權は本邦に適せざることを感じ世人をして舊來の男尊女卑を以て男女同權に勝さるものなりとの感覺を懷かしめたるもの丶如し、然るに婦人に教育ありて家政を治め子女を教育し又世上の交際上に於ても婦人の大に爲さゞる可からざることとなるは世人の許す所にして日本將來の發達も大に婦人の智力發達に關することとならん、斯かる折柄世人新聞に演說に男尊女卑或は女生徒不品行等の語を以てし又一派の論者は男女同權抔の穩ならぬ語を以て此に對するは余の大に怪ばざる所なり、是等の語の出でたる原因は何所にあるや、世間の風俗係り女子の於轉婆に反動し起るものなるか或は眞實社會の事實を研究し將來日本の爲に斯くあるべきものとの考より出でたるものなるか、或は世の吹聽の然らしむる所なるか余之を知らずと雖も恐らくは是等の原因結合して起りたるものに非るか。

聞く所によれば先き頃和田垣法學博士は大日本婦人教育會に於て男尊女卑の說を述べられたり、其歸する所男尊女卑は東西一樣の制定、東西一樣の教訓なり故に男女の別を正して教

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

育すべしとの意あり(六合雜誌百二十八及百二十九號)其論を區別するときは所々に贊成する所なきに非ずと雖も男尊女卑は東西一般の風俗に非ずと信ず又男尊女卑なる語は果して論者自分の思想を能く言ひ顯すものなるやの二點に付き論者の意を得ず依て試に男女交際に關する古來の事實を示し次に男尊女卑の風俗の起原を論じ終りに男尊女卑は將來望むべき人倫なるや否やを論ぜんとす。

太古にありて男尊女卑は東西一般の風俗なりしや抑も太古とは歷史前の時代にして之を研究するには種々の方法あり、其研究甚だ困難なりと雖も此頃太古の事を研究せんとするものは第一、現今の野蠻人種の有樣を研究して太古の有樣を察し第二、古代の器物を掘出して其當時の風俗を察し第三、神代記を以て歷史前の歷史と見做す等の事を以てす、然るに太古に於ける男女の關係を察するには第一及び第三の法を以てせざるべからず、即ち第一の方法を以て太古社會の風俗を研究したるは今日の所謂社會學にしてスペンサーの社會學之を代表するものあり、其他古代に行はれたる男女の關係に就て研究したる人少なからずと雖ともマクレナン及びモルガンを以て大家とす、彼等の說互に齟齬する所あり或は又其論中には吾人をして臆說ありとの感を懷かしむるもの少なからずと雖も太古にありて必ずしも男尊女卑の風俗ありしを斷言するものは一ッも之れ無きなり。而して古代にありて男女の關係定まらず下等動物と均しき有樣なりし點に於ては諸氏異論なきが如し、其後一夫多妻、一妻多夫等よりして遂に今日我々の唱ふる家族なるものの發達したるものにして其順序に就ては諸說區々に分るゝが如し、されば今日吾人が夫婦と名くる男女の關係未だ成立ざる時代に於て男尊女卑なるや或は然らざるやの點に至ては素より臆說多しと雖も察するに必ずしも男尊女卑一般の風俗ならず男尊女卑あり男女同等なるあり其有樣種々に別れたることならん、次に其理由を述んとす。

今日太古の事を研究する人は野蠻人社會の事を研究して以て人間社會の幼稚なる時を察せんとするは素より研究法の一部分にして缺く可からざるものなりと雖も無情にも人間を以て器械的に見做し野蠻人の風俗を以て各人種の根原を察するは余の大に取らざる所なり、蓋し野蠻人と開化的人種とは始より異なる質を有せしやも量り難ければなり又人間は草木と

異なり感情的動物なれば人情上より大に察せざるべからず、古代の神秘學は其根原明かならずと雖も一説によれば此れ古代の人情智識等を移したるものにて當時の人民の爲めには小說、科學、政治學、哲學等を含有したるものなり、故に此頃所謂社會學なるものよりは其形狀科學的に適ふ所少なきにも拘らず其の質は當時の人情を現はすに最も適したるものなり、神秘學に於て顯はしたる男女の關係如何を考ふるに必ずしも男尊女卑ならず、伊奘諾尊、伊奘册尊、の天下り給ふたること、天照大神が天地に光を發すること又希臘の神秘學に於てアセナ（アセナは希臘に於て軍事、智識、工業等の女神にしてヅースなる天神の女なり）なる神がヅースの頭より生れたること等の話に至ては何を以て之を女卑と名くるを得るや、或は未開人の神秘學中男の尻骨或は肋骨を取り婦人を造りたりとの傳說あるも是等の話は古代に普通の事にて人間が始めて魚より學問を學びたりとか或は木の股より人間が生れたりとの話と同樣にて取るに足らざる空想なり、然り而して古代の有樣を察するに其人情今日と變ることなく男女の結合を示すには尊卑或は權利等の語を以て爲すべき者に非ず、即ち愛情に依るものなり、稻田姬の素盞烏尊に於けるシミリー（ジユピターの情婦）のジユピターに於けるアリアデン（アリアデンは希臘に於て春の女神にしてダイオニサスなる農業の神と婚姻したることに就ては種々小說的の話あり）のダイオニサスに於ける等は所謂愛情談にして是等の類神秘學中少なからず、素より其中には今日に於ては不正と認むる如き話なきに非ずと雖も男女の交際は素と尊卑權利等の關係に由て始まりたるものに非ず却て人情に基したることを表はすに足る、故に野蠻人のことは措て問はず、今日開化したる人種に就て太古の有樣を察するときは男女愛情を以て交り且つ婦人が大に尊敬を受けたる場合少なからず、故に假令男尊女卑の風行はれたりとするも是れ決して一般の風に非ず、人間の情性より察するときは男女同愛、同情の風俗こそ一般に行はれたることとぞふらんと思はる。

次に男尊女卑の風俗の起原を論ず、太古の時代を去り歷史時代に移り考がふるに何れの國にても家族なるもの既に發達せり、是れ亦野蠻人の家族は措て論ぜず、開化的人種に於ては家族の根原に就て二種の理由を假定するを得、一は宗教的に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

して古代には祖先禮拜宗一般に行れたるが故に各家族に於て先祖を祭り永く其系圖を傳へしむるにあり、二は便利主義にて男女和婚し一家に住ひ女子を使役して男子の奴隷たらしむるか或は又男女互に相助け且つ子女を養育するに就ての都合上より起れる者なり、基督教の如く先祖に關係なき宗教の行はるゝ國殊に米國の如きは第二の主義に由る者なるが如しと雖も其他多くは祖先禮拜宗の教理に基きて起りたる者なり、今日基督教を以て自宗と爲すアーリアン人種の如きも素と祖先禮拜宗を奉ぜしことは疑ふべからざることにて祖先禮拜宗こそ東洋一般に行なはれたる風俗なれ、(Hearn's the Aryan houshold) 且つ社寺に僧侶ある如く家族は祖先禮拜宗の神官僧侶の如き者なり、此考への發達するに從ひ婚姻の考へ徐々に變じ太古の愛情的結合を變じて宗教的の儀式と爲すに至れり、其目的は家妻をして祖先の禮祭を助けしめ且つ子孫を繼續するにあり、故に此等のことを以て婦人の最大重任とす、其他人民の繁殖するに從ひ經濟上の關係即ち女子は自立するの困難あり、其等の關係より男子に從はざるを得ざる場合に至りたることあらんと雖も之を要するに家政的思想は婚姻をして愛情的結合より器械的結婚と變ぜしめたるなり、又斯る器械的夫婦間を制するには種々器械的の禮法なかるべからざるの必要を生じたり、故に若し人の妻となりて子なきときは其結婚の目的を達せざるが故に或は離婚となり或は又他に媵め或は妾の如きもののあるも之に對し不服を唱へ能はざるは勿論只自己の不具なるを憾むのみ、斯の如き器械的憲法を以て家政を治むるに至り男尊女卑の風漸く行はるゝに至れり、之より後歷史上に於て現はれたる家政の風俗を見るに男尊女卑は自然に發達したるものゝ如し、例へば希臘に於て其例を取らんにホーマーの時代に於ては其風俗區々なりと雖も男女の交際自由にして婦人が其社會に於て勢力を得たる例少なからず、之れホーマーの書に明白なりと云へり(W. P. Trent)後スパルタ及びアセンスの盛なる時代に於てスパルタに於ては婦人の勢力最も強くしてアリストートルの如きは大に之を非難しスパルタの亡たるは此に基するものなりと論じたり、アセンスに於ては婦人は沈默なるを以て其德と見做す程にて重に家政を司り及び子女を養育するに止まりたるが如し、(Carrie F. Butler Thwing. The Family. 27.p.) ソクラテースの

如は男女共に同樣の教育を與ふべきを論じたりと雖も是其當時にありては世人をしてソクラテースの異説家たるに驚かしめたるのみ、羅馬の時に至ては婦人の有樣最も低くして夫は其妻に對し無限の勢力を有しケートーの如きは夫は妻の裁判にして其力無限其好むまゝに爲すとを得、若し妻過つとあらば之を罰し飲酒することあれば之を罰し姦淫を爲せば之を殺すと云へり(C.F.B.T.The Family. 34p.)素よりケートーの如き人のみに非ず、婦人にして夫及び他人より敬愛せられしものなきに非ずと雖も到底婦人は男子の支配を免れ能はざりしものなり、又東洋に於て支那、印度の有樣を考ふるに古代の事は詳かならざれども説文に妻は齊也とあり即ち妻とは夫に齊しきとの意なり又周文の民を治むるや詩に云ふ寡妻に則り家邦に至るとあり、是れによりて當時婦人の位置を窺ふに足る、然りと雖も大體より論ずるときは東洋に在ては宗教の儀式發達したること最も早きが故に印度の「メヌー」の如き又支那の禮記の如き婦人は幼にして父母に從ひ嫁して夫に從ひ夫死して後子に從ふ、即ち婦人は獨立すべきものに非ることを示せり、之れ宗教及び禮儀の早く發達したるが故に此等の國にありては婦人の自由を妨げたることならんと信ず、今翻つて北歐に移住して後羅馬に侵入し羅馬帝國をして滅亡せしめたる彼の野蠻人種の如き又古代の獨逸人の如き儀式發達せざる國に於ては却て婦人は其自由を得たり、彼等が羅馬侵入の節に於ても婦人の位置及び女徳は遙か羅馬人に勝れりと云ふ(C.F.B.T.The Family 640.)爰に吾人の注意を要するは基督教なり、之れ新思想を有したりと雖も後中古に至り宗教の儀式的に流るゝと共に宗教社會に在ては獨身を以て清淨なるものと考へ教會の役目等の如きは皆獨身を守るに至れり、故に種々の弊害を生じたりと雖も素と基督教の主義たる彼の先祖の祭祀を助け子孫を續くる等の婚姻に非ず、婚姻を以て新家族を造り之を獨立の一體たらしむる主意あれば基督信者中には其考へ自然に發達し中古より近世に移る頃諸種新思想起ると共に彼の獨身主義の如きは却て弊害を生ずるものにて又宗教の眞意に非ず、婚姻を爲し良き家族を創造することが教理に適ふべきの理を主張するに至り當時の輿論を一變し今日の歐米的家族を生ずるに至れり、又本邦にありては古來の有樣を察するに古代にありては婦人の位置現今の如く窮屈な

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

らざるものと信ず、蓋し古に戀歌の發達したるを以て知るべし、佛敎の入來るに及んで家政上の儀式發達し其れと同時に又武勇必要の時代起り勇を德とし戀を不德と考ふるに至り婚姻をして器械的に爲し夫を一家の主人とし妻子は其附屬物の如く見做し愛情を去り主從の關係の如き儀式を以て之に代らしむるものとはなれり。

既に論じたる所を以て考ふれば人情は古今一にして儀式の發達せず又今日吾人の婚姻と稱すべきものなき時代に於ては男女の交際は愛情に基し同愛主義にして男尊女卑を以て必ずしも一般の事とは云ふ能はず、又權利等の考は思ひもよらぬことにありし、而して男尊女卑は宗敎及び他の儀式の發達を重もなる原因とし腕力の强弱從て經濟上の關係、社會の生存の爲め武勇の必要等より漸々發達したるものなりと信ず、されば今後男尊女卑を以て人性に適ふたるものと爲すや或は然らざるや、素より男尊女卑なる語の定義によりて同主義も大に其赴きを異にする者なりと雖も其定義如何に拘らず男女の間に於て尊卑、權利、等の語を用ゆるは甚だ不穩にして男女互ひの感觸を害し一家内の圓滑を缺くを恐る、婦人の家政に於ける關係、子女の敎育、廣くは國家の盛衰に關する大任なるは世人の許す所なり、然るに今女卑女權等の語を以て互に論ずるは啻に相方の感觸を害するのみならず敎育の發達上に影響する所少なからず、故に余が將來望む所は同愛主義を取り家政上にありては男女相助け情を同くし一家の穩かならんことを務め互に分を定め相任じ堅固なる家族道德を發達せしむるとなり、論者も此に御同意ならん若果して然らば論者自ら予は男尊女卑の論者の一人なりと云はれしは其意のある所を知る能はず男女關係に就ては尊卑權利等の語を全く廢し同愛同情相助等の語を以て之に換へんとを希望する者なり。

以上論じたるは婦人の男子に對する位置を論じたるまでにて其の位地好きも今日我々が稱する男女の德義惡しきことあるやも計り難く又男尊女卑の最も甚だしき時に於ても婦人の節操却て宜きやも計り難し、余は德義發達の事に就ては別に考ふる所ありと雖も今之を論ぜず、聊か男尊女卑は無意の眞理なることを記して以て男尊女卑論者の批評を仰がんとするものなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○對外政略

稻垣滿二郎氏が膽力は謝せざる可らず。其所謂る政略は即ち國是にして、吾邦民が一同對外の國是として覺悟すべきものを指ざすに似たり。兎に角、頑固を國粹と思ふ說の多き今の世の中には、對外國是の教授は頗ぶる緊要なることなり。

○新聞紙

既に烏の雌雄を知らず、誰か能く新聞紙の黑白を辨ぜん。唯何處にか御用新聞ありとの評判を聞く喧々たるのみ。唯だ、獨立せりと見ゆる新聞紙の度々發行停止さるゝあるのみ。

○大勢一轉

過保守の病弊にはもはや厭果て、今や反動の勢ほひ復たび盛り返さんとす。徴兆すでに各黨に顯はる。今日に於て初めて保守の流行に仲間入せんとする人の哀れさよ。

○武道

武道の聲やうやく各地方に反響せり、たゞ之を古風に弄そぶ勿れ、冀はくは文明世界の一教科たらん。

○今後の小學校德育

明治十九年五月文部省令第八號は、小學校の德育に教科書を用ひしめず、教員身自ら言行の模範となることを命じ、德育は只だ教員の方寸に一任したりしが、自今は德育上の教科書を採用することとし、而して其撰定の權は文部省の一手に歸したり。故に今後は全國小學校の德育事業一に文部大臣の方寸より發し、各小學校の教師は右教科書の講釋師となるに過ず。進步か退步か。實に歎かはしき世の樣あるかな。

○大祭日の唱歌

たとへば、大祭祝日に小學校にて唱歌を歌ふとせん、如何に外國の優美ある曲にても、又は新たに節づけたる秀妙の作歌にても、先づ文部省の檢定を經たるものならでは、朗吟相成らずと定まる。萬葉時代の小供の方遙かに自由なりき。

○パーチル死す

素より欠德ありしなるべし、只だ其俠骨と豪膽とは、英國無數の政治家中に卓出せり。末年失誤の償ひ未だ成らず、愛蘭が慘澹たる困厄未だ散ぜずして、パーチル先づ死す。吾人は深く之を悼み、且つ其賢母氏の爲に同情を表する也。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女報

可愛子編

●皇太后陛下　には、去る十日午後三時四十五分御機嫌麗はしく京都七條停車場へ御着、北垣夫人はじめ、京都婦人慈善會員、京都府高等女學校、同志社女學校等の生徒は、いづれも奉迎に出でたりといふ。

●皇太后陛下　は同十一日原山御陵へ御參拜あらせられたり。

●皇太后宮京都滯在の日限　皇太宮陛下京都御滯在の日限を承はるに凡そ三週間の御豫定にて、御滯在中若くは御歸途には奈良へ行啓遊さるゝ筈なりと。

●皇后陛下　近衛諸隊は近々對抗運動を施行さるゝに付、天皇陛下の行幸あらせらるゝとは兼て承はり及びしが、皇后陛下にも行幸あらせらるゝとのと。

●柳澤伯爵夫人　舊大和郡山藩主柳澤保申伯の夫人明子の方(皇后陛下の御令妹)には皇太后陛下御機嫌伺ひの爲め、令孃と共に從者六名を隨へて出られたり。

●慈惠醫院幹事　川村伯爵夫人、戸田伯爵夫人、大村伯爵夫人、榎本子爵夫人、土方子爵夫人、高嶋子爵夫人、田中子爵夫人、杉子爵夫人、仁禮子爵夫人、花房從三位夫人は、孰れも去る六日皇后陛下より來る明治二十五年度の東京慈惠醫院幹事を仰付られたりと。

●細川校長の說諭　細川氏は過日高等女子師範生及び附屬女子小學生の父母又は保證人等を學校に招きて、家庭教育の事は勿論衣服の事、辨當の事などに至るまでも細かに教戒を加へ、尙ほ生徒の父母又は保證人等には、時々來校して生徒授業の有樣を參觀されたしと望みたる由。

●婦人慈善會員の集會　過日鹿鳴館にて婦人慈善會員の秋季會を開き、幹事以下會員數十名參集したり、又青木子爵夫人は幹事辭退の議を申出たりと云ふ。

●慈善音樂會　牛込區中町の芝玉女學校にては、從來の學科の外道回加藤錦子、高橋謹子、松田たえ子、牧野英子の諸氏其外有志諸婦人の發起を以て中等以下婦女子の爲め更に各種實業の別科を設け實際に就きて教授し、且其科業の上進に從ひて相當の手數料を分與し、又卒業の上は自家に在て活計の助けたらしめ、賤業婦女子の幾分を減却せんことを希圖せんとて、其資額補助のため來る廿五日午後一時より、神田錦町錦輝館に於て慈善音樂會を開き當日は歐洲樂清樂及び三曲の合奏、番外には能狂言其他二三の催ほしあり、臨塲券は上等一枚金一圓、下等金五十錢なりと。

●醫術開業試驗と女子　去る九日の試驗には、女子の受驗者二人、次の日は五人なりしと。

●慈惠醫院　醫員看護婦等の住家に充つる爲め愛宕町なる舊道路を買入れ去る六日より其工事に着手せり。

●前田侯爵夫人　は過日新橋發の滊車にて佛參の爲め舊領加州へ赴きしよし。

●築地女子小學校　は增築落成せしにつき來る卅一日富田府知事等を招待し開校式を執行する筈。

●產婆會　去る十三日正午より神田和泉町中村亭に於て開會せり。

●女子の內職　目下女子の內職はフランチルシヤツ(糸持出しにて)一枚の縫賃上り賃千個にて五錢より七錢五厘、ハンカチフ一枚三錢より五錢、髮結、嶋田髷三錢五厘、並一錢五厘、足袋(糸持出にて)一足縫賃一錢より八厘、マツチの箱張錢より五錢、丸髷三錢より四錢、天神髷二錢より三錢、賃仕事袷一枚十錢、綿入十二錢、羽織十二錢位なりと。

●共立女子職業學校校舍增築　同校にては本年暑中休暇中、校舍一部增築し、新教室四を加へり。同校目下の生徒數は甲裁縫科百五十二人、乙裁縫科七十八人、甲刺繡科九十六人、乙刺繡科三十七人、甲編物科七十一人、乙編物科十一人、甲造花科三十一人、乙造花科十人、甲圖畫科三十人、乙圖畫科六人なり。本年夏期卒業生は、各科を合して九十九人なり。

●大日本婦人衛生會の總會　九月十九日麴町區明治義會に於て開かれたり、職員改撰の結果は左の如し、(會長)加藤鈴子(副會長)瀬尾作子(幹事)村岡久野子、細川靜子、西升子、堤松子、椿高子、北澤信子、馬渡玉子。

●寄附金　大日本婦人衛生會附屬保育園設立を賛成し、日本橋區蠣殼町三丁目五番地長井絲子より金十圓、堀留町二丁目十五番地板谷梅子より金五圓を寄附せり、二氏共に會員外なり。

●孤兒院　東京府下にも孤兒院起らんとす、即はち築地立教女學校の人々主として關係し他に無名一監督の寄附もあらん近々其設立をせんとす。

●慈善教育　明治女學校たては、夜隔日一時間づゝ近邊の下婢に讀書算術を無月謝にて教ゆ。前に掲たる立教女學校の教師も亦た近邊の貧兒を集め教育する由。

●大坂照暗女學校　監督ヘヤー氏は東京の立教女學校に於けると同樣の改革を大坂の照暗女學校に施したり、之れに當つて改革を續行すべき人なく、目下其計畫中の由なるが、赤松さら女史は先づ奮つて之に聘せられ過日坂地に趣むきたり。

●新潟女學校　越後新潟の英和女學校は此度一大改革を行ひ澁谷善作氏校長に、松村助吉氏教頭に定まり、近日教員にも變革ありて、教育法に一生面を開かんとす。ふ̇く̇が爲め阿部欽二郎氏は此頃ろ女教師を聘せんとて上京ありぬ。

●カークス女史　本號に婚姻の說を寄せられたるカークス女史は監督教會の女宣教師にして平素日曜叢誌の發行に助力する所ろの人なり。今後は女學雜誌上に於ても時々其信切なる意見を公けにせらるゝことゝなりぬ。

●廢娼雜誌　來月中旬より平野喜太郎氏發行人、飯野吉三郎氏編輯人、野條愛助氏印刷人となりて廢娼雜誌を發行せんとし、我社の巖本は主筆の任に當ることゝなりぬ。

●廢娼の運動　神奈川縣廢娼の首動者なる横濱靑年會は、第一期議會に於て廢娼請願書を提出したりしも議場紛紜の爲に埋沒せられたりしが、頃日第二回の請願を爲さんとて、會長佐々木氏外數名の役員に依托して目下其準備中なるが、其第一着手として廢娼大演說會を全地に開くとの事なり。

●東北廢娼　弘前靑年會靑森靑年會の二會は相合して本年の廢娼運動に大に盡力せんとす。

●アレストン女史と金子せん子　山梨英和女學校教師なる二氏は、去る六日、七日、八日の三日間、同縣南北都留郡に巡回し、基督教の演說をなせり、同地の傳道、爲めに振ふ所あるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●山梨英和女學校　の新築は旣に成れり、十日開校式ありたり。

●福井縣尋常中學校女子部　にては愈々學科程度を確定せり

●同縣小學校の女訓導　は高等科に十六人、尋常科に十人あり、昨年に比すれば九人を增せり

●福岡縣尋常師範學校女子部　は生徒四十名あり、昨年に比すれば九人を增加せり。

●高田女學校の英語教師　越後高田女學校英語教師として、九月廿六日東京女子學院のミス、ミリケン教師、同學院卒業生三名たみ子及び內藤みよ子の三氏赴任せられたり。

●高田女學校生徒　なる小山ちか子、長谷川すゞ子の二名は今回女子學院に入校せり。

●神戶英和女學校教師　同學校の卒業生にして、先年來米國カールトン女學校に留學中なりし渡邊常子は、本年夏同校を卒業し、客月歸朝、本月より同校にて教授に從事し、重もに數學科を擔當さるゝ由なり。又同校の教師增田鶴令嬢は、過般讃岐坂井出の岩瀨氏と結婚の約整ひ、客月より教師の職を辭し、近日其式を擧げらるゝやに聞く。長く同校に取締をなし居られし小林釉女は、過日其職を辭し、本月三日西京に歸り、大林某氏代て其職を執らるゝ由。又同校にては本期より家政の一科を設け、本間重慶氏講義を囑托されたりとぞ。

●佛教婦人會　去る五日午後二時より大和國添上郡東市村字塔寺に於て佛教婦人會を擧行せり、會主は寺田惠諦師にして菊池、橋本、小早川及び婦人會本部派出員岡法城居士等諸氏の演說あり、聽衆百餘名あり一先づ中止し、同夜午後六時頃より再び開會せしに、伏見文秀女王殿下井に山村圓照寺、新舊兩門跡の臨席あり、聽衆三百名に餘まり餘程の盛會なりし由。

●京都佛教婦人會の例會　去る七日午後二時より京都五條通西洞院西へ入る長覺寺に於て、京都佛教婦人會の例會を開き佛教演說を爲したるが、同會長松園子爵婦人にも出席あり、該辯士は吉谷覺壽、江村秀山、英立雪の三氏なりと云ふ。

●慈善芝居の計算　客月廿四日より五日間、京都花見小路祇園館に於て、慈善の主意を以て興行したりし義助一座演劇の出納を聞くに、總收入高は金九百二十七圓四十錢にて、此內より四百二十七圓十五錢の實費を引去り、殘る處の五百圓二十五錢は京都婦人慈善會へ寄附すべき筈なりと。

●無妻主義　松尾てふ人あり、岡山日報に左の廣告を爲す。

有所感自今無妻主義を執る
併て迎妻の爲めに周旋せらるゝ諸彥に謝す
久米北條郡　松尾綸叟

◎京都通信　●婦人傳道隊　山崎、海老名等の夫人の主張より名の如きものを組織し隊員を專ら諸教會所傳道地の請に應じて働くものと、資力を盡して之を補助する者との二部に分ち、將に大に活動せんとせり九月廿六日、其相談會を開く集る婦人九十人餘。

●同志社女學校　新教師マイヤ女史は來校以來數旬を經ざれども大に好評あり、同校上級生は同志社男生と等しく附屬書籍館の書を縱覽するを許されたり。

●同看病婦學校　同校に入校申込十三名あり、不日新教師米國より來るべしと云ふ。

◎越後高田通信　●米南修道婦人教會第一支部　にては去月廿九日之が例會を中頸城郡小出雲村光蓮寺に開かる、出席者正會員四十餘名ありて、法話演說等ありたり。

●同教會第二支部發會式　同會第二支部發會式を本郡長澤村光照寺に於て開ろ、出席三十餘名晝夜二回の法話演說等ありき、同會の目的は佛教によりて婦人の淑德を養成せんとするにあり。

◎宮城縣通信　●尋常師範學校附屬小學校　にては、是まで高等科女學生にも、英語を學科中に加へて教授し來りたれども、今般斷然最下級には全廢、六年以上には一週一時を減じ漸次全廢する由、但し其時間を用て裁縫の時間に加ふ。

●身章私塾臨時卒業式　裁縫學校なる同校にては、去る五日卒業式を施行せり、卒業者は三名、即ち長橋せき子、荒つる子、森すみ子なり。

◎鳥取縣通信　●本月二日因幡高等小學校職員評議會例會を開き、教授上及管理上のことに付き議す、談偶々禁煙の事に及ぶ、訓導橋尾氏蹶然として曰く衞生上及管理上の爲め堅く喫烟を禁ぜんと滿坐肅然思慮する者の如し、少許ありて一教員大ひに贊成の聲を發す、衆續ひて之れに和し滿坐直ちに禁烟の議さいのひ爾來同校內又た喫煙の癖するなしと。因に記す橋尾氏は同校屈指の喫烟家にてありしと云ふ

●會見郡福生村畑忠太郞氏は、廢娼請願書を第二期帝國議會へ提出せんとて、同志者の調印を纏むることに盡力中なるが、可成門脇代議士の上京迄に整頓して、同代議士の取扱を以て提出する豫考なりと。

◎高知縣通信　●京都同志社普通學部卒業生濱田正稻氏は、今回高知英和女學校教員に招聘せられたり。

●高岡郡越知村製糸傳習所は九月下旬工女三十三名に傳習證書を授與し、其內十二名試驗の成績優等なりしを以て其證を與へ、且つ製糸會社は工女一同に賞品を贈り、又た技藝を區別し優待金を與へ、教師齋藤鎌雄氏は製糸の件、高知縣農商課員西內義顯氏は養蠶の件を演說して其式を終りたり。

◎愛媛縣通信　●少年禁酒矯風會　は愛媛縣伊豫國今治皇太神皇宮に於て、九月十九日開會式を擧行せり。

●女子に被撰擧權を與ふるの議可決す　ニュージーランドの議會にては、女子に撰擧權を與ふるの議案可決せり、この議案は明後年（一千八百九十三年）より實行する筈にして、撰擧權を與ふると共に被撰擧權をも併せ附する者なり。

●女子の決鬪　去月四日のことなりとか佛國巴里府に於て二人の女子の間に決鬪ありたり、雙方共に痛く傷を帶び、今に病院にて治療中なりと云ふ。

●猥褻出版物等の禁過同盟會　佛國に於ては、近來猥褻なる文書、彫刻物及寫眞の類坊間に現はるゝもの甚だ多きを以て、之を禁過せんがため巴里に一の同盟會を組織したり、該會は本部を巴里に置き全國主要の各市府に其支部を設け、內務卿コンスタン氏は職權上許す限りの權力を用ゐて此同盟會を援助するの決心にて、旣に數多の書肆に就きて背德と認定せられたる出版物を差押へ且つ之を破却せしめたり、若し此處置にても充分の効力を見ざるときは更に嚴重の方法を執るべし、昨今背德の詩歌及圖畫等に關して告訴する者陸續跡を絕たざる有樣なれば、議院は開會早々此種の販賣を禁ずるための法案を議すべしと云ふ（九月八日巴里發）。

●ピーチャー氏未亡人の祝會　米國有名の說教家故ヘンリー、ワード、ビーチャル氏未亡人は、此程ブルックリン市に於て、十數人の孫、曾孫に取卷かれて、其誕生の七十九年祝會を開きたりといふ、其喜び推すべきなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

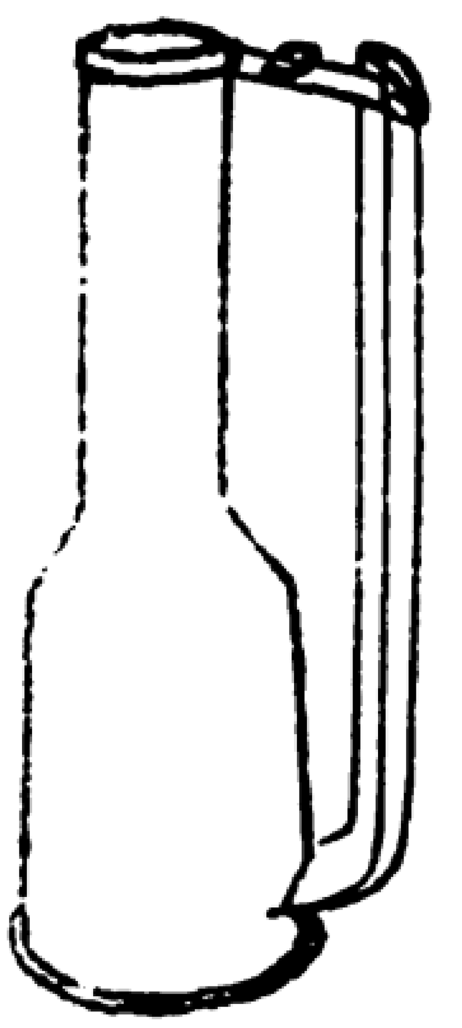
品名	十一月十五日
白米（一円付）	
一等米	一斗〇四合
二等米	一〇七
三等米	一一〇
四等米	一一五
五等米	一二一
正米（一円付）	
越中米	一斗五四合
美濃米	一四二
尾張米	一四九
一志米	一四一
忍領米	一四〇
雜穀（一円付）	
本貫大麥	二斗一〇合
上州小麥	一九五
竹林麥	二一〇
梅澤大豆	二二〇
青柳大豆	二一五
吟小豆	一七五
白胡麻	一三八
黒胡麻	一六五
繭（一円付）	
赤穗	二六七
大驗	二七七
本繭	四四五
新繭	四七五
醬油（一樽付） 最上 極上 上物 中物 並物	七八 八二 八八 一、一五 一、三〇 一、六〇 一、八〇 二、一〇 二、二〇 二、五〇
味噌（一貫付）	
地製上白	六、八〇〇
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	五、七〇〇

品名	十一月十五日
木綿冬縞（一反付）	
伊勢改良縞	七〇
同糸入縞	九〇
笠井糸入縞	八五
佐織糸入縞	九五
生棧茶縞	三五
美濃黄八丈	二〇
同双子	六八
物産縞	七三
糸入愛國縞	九八
結城地	八五
本場青縞	一、三〇
眞綿（一貫付）	
飛入金	二二八、〇〇
飛無銘	一三五、〇〇
極上入金	一一八、〇〇
上入金	一二五、〇〇
並入金	一一三、〇〇
絹糸（一円付）	
本練花色	二六〇
同色物	二五〇
羽二重色物	二四〇
同上黒	二五〇
延糸太筋	二一五
斉子糸色物	二八〇
同湖色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四四五
坪糸	一八〇
毛糸（一磅付）	
青印	九二、〇〇
鷗印	八五、〇〇
スコッチ四本撚	六八、〇〇
同三本撚	七五、〇〇
同上物	八五、〇〇

品名	十一月十五日
製茶（一百目付）	
山城江州稀大頭	二、五五
同稀頭	二、二〇
同大頭	一、八五
同中頭	一、五五
同中茶	一、〇〇
狭山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七〇
同大頭	一、三〇
同中頭	一、二五
同中茶	一、〇〇
鰹節（十貫目付）	
土佐大	三三、〇〇
薩摩大	二〇、〇〇
伊豆大	三三、五〇
駿州大	三三、〇〇
遠州大	二三、〇〇
房總大	一八、〇〇
炭（一円付）	
伊豆上	四五〇
同中	五〇〇
同下	六五〇
角上	二九〇
丸上	二四五
水油（一樽付）	
地水	六、二〇
胡麻	八、八〇
荏油	九、七〇
桐油	六、二〇
綿油	七、二二
坂水	七、二五
石油（一箱付）	
チヤスター	一、五六
ブポース	一、五五
ホーキ	一、五七
ロシヤ	一、五四

新發明品 **手桶湯わかしの廣告**（專賣特許願中）

一家の經濟は細かき所ろに用心して、些細の事を大切にするにあり、古しへより儉約せずして家の富みたる例し曾て有らず。扨て、此の儉約を爲さんには、家の内の用事を成るべく簡略にして、無用の手を省き、無用の費を惜しむにあり。儉約は、富を生ずるのみならず、勉強を生じ、人々心はげみて皆々面白くなり、一家相樂しみて春風の心地よきが如くなるものなり。一家の經濟に心を着くるは、家を富まし、家を樂しくし、家を樂園の如きホームと爲すものなり。



此主意を以て、吾社はホームを美しくするとに樣々心を碎き多年、文筆敎育の上よりして之を試ろみたれど、亦以て一家內の實際の改良を促かすとの大切なるを感じ、先づ家具を簡便にして、細君の勞を省き、臺所元の入用を少くするの方法を工夫せんとす。

扨て第一に工夫したるは、手桶湯わかしなり。此は手桶の中に湯わかしを入れ、僅かの炭火にて二十分間に之を熱湯にわかすの法とす。器具は至つて簡便なるものにて圖に示すが如し。手桶にても、水がめにても、盥にても、風呂にても、皆な用ゆべけれど、夏向き行水などに使はんに、手桶に投げ込み置き、二十分にて湧きたるを一杯用ひ、更に第二の手桶に投げ入れて、又の二十分間に更に熱湯を得ば、至極重寶ならんと思ひ付き、假りに「手桶湯わかし」と名づく。目下專賣特許願中ゆへ、違からず免許あるべし、左れど時節から一日も早く入用の品と思ひ、此頃既に賣出したり。代價は銅製にて一個一圓五十錢とす。更らに追々工夫して廉價にて以來上るやうにすべし。

各地方にても配達運輸すべし

東京麴町區下六番町六番地
女學雜誌社家具部

北海道一手賣捌 函館末廣町四十九番地 齋藤政七

第三版

百人一首講義

上製美本 五十錢 郵税六錢
並製淡裝 三十五錢 同四錢

清秋の讀書に宜し
歌留多遊びに宜し
進物に宜し
詠歌に宜し

女學雜誌社

雅俗諸體

作文口授 全

鈴木弘恭先生口述
一名國文教科書

此書ハ大人カ各學校ニ於テ實地ニ授業シタル者ヲ筆記シタルナレバ國文ノ作例ハ勿論許多ノ熟語ヲモ擧ラレタリ此書ヲ一目セバ如何ナル初學ト雖モ消息記事論説諸體ノ雅文ヲ立所ニナシ得ラルベシ諸君速ニ購テ試ミ給ヘ

出版所 神田美土代町四丁目五番地 敬文堂
賣捌所 麴町下六番町六番地 女學雜誌社

産婆生徒募集廣告

本院産科教學室内産婆養成所ニ於テ産婆生徒四十名試驗ノ上來ル十一月入學ヲ許ス家事ニ係累ナキ滿二十五歳以上ノ婦人ニシテ望ノ者ハ本院事務室ニ就キ諸規則手續等承知ノ上本月廿五日限願書差出受驗トシテ十一月一日正午十二時出頭スベシ但規則書入用ノ向ヘハ郵送スベシ

廿四年十月一日

東京本郷區元富士町

醫科大學第一醫院

クリスマス 最良の贈物用

クリスマスも既に近くなり、正月も亦で遠からず、子供衆又は家内にて樂しみに讀む面白き書物を作らんとて、左の味ひ深き教訓のおはなしを出版す。

子供が讀みて面白く、御婦人が讀みて爲になり、哲學者が讀みて感服する趣向なり。繪は彩色にて、文章は流麗玉を轉ずるが如し。贈物には最上なり。

一冊 七錢郵税二錢
十冊 一割引
五十冊以上 二割引
百冊以上 二割半引

全國

廢娼同盟會

聯合會及個人諸君に告ぐ

本年々會を來十一月六日(金曜日)午后二時明治女學校内に開き、翌七日翌々八日の兩夜厚生館に於て大演説會相催候。右に付例年の通り、各地方の團躰及個人諸君より委員を派遣し其地方運動の景况を報道せられたく候。此旨既に郵報致候と雖ども、尚本紙上にて廣告候也。

東京廢娼會
東京廢娼壯年義會
東京矯風會
東京婦人矯風會
東京婦人白標俱樂部

下婢教授

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

下婢教授

一週三時隔日八時より讀書算術作文の三科を無代にて敎授す(但油料五錢)十一月一日より稽古相始候に付有志の者は申出あるべし

下六番町六番地

明治女學校

自營館擴張義捐慈善音樂會

本月廿四日午后二時より木挽町厚生館ニ於テ開ク會費上等壹圓中等五十錢下等廿五錢有志諸君入會御申込アランコヲ乞フ

有志者申込所

出雲町 警醒社

銀座三丁目 十字屋

一番町三十七番地 曉星園

迎接日

毎木曜日午后三時ゟ
橫濱ハ第四土曜朝

巖本善治

診察所 日本橋區大傳馬町二丁目廿五番

住宅 外神田和泉橋通松永町二十三番

渡邊泰

女醫

下谷西黒門町廿二番地

荻野吟子

化學作用 クリーニング水 一名洋服洗淨水

米國洗染會社傳習　東京伊藤洗染所製造

經濟家の諸君は早く御求めあれ

洗淨効驗

●男女洋服のよごれ ●羅紗帽子のよごれ

●軍服幷金銀モールの汚れ ●ゴム製カラ●カフの汚れ

●羅紗幷毛糸織かた掛汚れ ●フラ子ル●セルのよごれ

●染方論合日本絹布汚れ ●其外古寫眞●毛織よごれ

總てよろし此クリーニング水ハ輕便の品にて常に洋服を御用ひの諸君ハ經濟上必要の品なれバ御求めの上其効驗を知りたまへ詳細ハ使用傳授書にしるす

一壜十錢より種々

○東京をはじめ名地和洋小間物店藥店には追々差出候御求を乞

全國一手販賣

東京日本橋區馬喰町一丁目

小町水本店

平尾賛平

請賣御望の諸君至急御照會あれ

●全躰の色を**白**く皮膚を**艶**美にせんとする貴孃淑女貴顯紳士諸君に**告く**

日本授產館保証

新發明 美容劑

定價 小瓶金三十錢 大瓶金五十錢 特製金壹円

艶の家は理化學的醫學的の原理に基き發明し日本授產館長の鑑定を得たる佳品にして天然色黑くきめあらきもくし**艶**美にし皮膚のふきで物一切を退治し且つ豫防し日に且つやけ白粉やけばい毒にて色黑きをできほうそうの痕も消し油垢を除き身躰を淸**美**人となる事府下各新聞の賞評潔にし衞生上極めてよしを見ても知らるべし御試用を賜へ

●府下無運賃にて御屆申端書にて御注文あれば**白**
●遠方は運賃添爲替にて御送あれ郵劵代用二割增

(運賃見計)

東京神田區末廣町十三番地

本舖 一手販賣 **艶の家商店**

女學雜誌社出版書目

文法口授	鈴木弘恭大人述	一冊	同十六錢
產婦小見攝生法	船越鼎太郎君著	一冊	金十六錢
ひめ鑑	關輪正路君纂	一冊	同四十五錢
善惡之岐	中島俊子著	一冊	同卅五錢
婚姻論	橫山雅男君著	一冊	同十六錢
廢娼演說	島田三郎、植木枝盛兩君演說	一冊	同五錢
妓樓全廢	巖本善治述	一冊	同五錢
公娼可滅	島田三郎、巖本善治同著	一冊	同五錢
鐙子小傳	巖本善治君著	一冊	同八錢

專賣特許 新發明 **廣告封箋**

特許出願中

代價十枚ニ付第一號金四錢第二號金三錢第三號第二錢五厘第四號金二錢第五號金一錢五厘

●廣告料一行廿字詰一萬枚ニ付金五錢

●廣告封箋ハ 卷紙ヲ用ヒスシテ書狀トナリ又包紙ニモ用ヒラル、便利ノ發明品ナリ

●廣告封箋ハ 體裁高尙優美ニシテ安價ナレハ何方ニモ愛翫使用セラル、發明品ナリ

●廣告セハ郵便ヲ利用スルカ故ニ名聲忽チ四方ニ傳播シ商賣ノ繁榮ヲ謀ルニハ最上ノ利器ナリ

發賣所 東京市本鄕區春木町三丁目卅五番地 **瓢成舍**

廣告	一行	十錢宛	
雜誌	一册	六錢 郵稅。五厘	(但府內無郵稅)
	十一册	五拾八錢 郵稅。五錢	(同前)
定價	半年分	壹圓四拾三錢 府外は	壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢 府外は	貳圓八拾六錢

發行所 東京市麴町區下六番町六番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

艶の素は理化學的醫學的の原理に基き發明し日本授産館
長の鑑定を得たる佳品にして天然色黒くきめあらきも
くし**艶**美にし皮膚のふきで物一切を退治し且つ豫防し日に
且つやけ白粉やけばい毒にて色黒きをできほうそうの痕
も消し油垢を除き身躰を清**美**人となる事府下各新聞の賞評
潔にし衛生上極めてよし見ても知らるべし御試用を
賜へ

白

府下無運賃にて御届申端書にて御注文あれ●遠方は運賃添為替にて御送あれ郵券代用二割増

東京神田區末廣町十三番地
本舖 一手販賣 **艶の家商店**

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒攝生法	一冊	金十六錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同十六錢
島田三郎、植木枝盛兩君演説	廢娼演説	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
巖本善治君著	鐙子小傳	一冊	同八錢

特許出願中

專賣 新發明 特許

廣告封筮

代價十枚ニ付第一號金四錢第二號金三錢第三號第二錢五厘第四號金二錢第五號金一錢五厘

●廣告料一行廿字詰一萬枚ニ付金五錢

●廣告封筮ハ卷紙ヲ用ヒスシテ書狀トナリ又包紙ニモ用ヒラルヽ便利ノ發明品ナリ

●廣告封筮ハ體裁高尙優美ニシテ安價ナレハ何方ニモ愛翫使用セラルヽ發明品ナリ

●廣告セハ郵便ヲ利用スルカ故ニ名聲忽チ四方ニ傳播シ商賣ノ繁榮ヲ謀ルニハ最上ノ利器ナリ

發賣所 東京市本鄕區春木町三丁目卅五番地 **瓢成舍**

廣告	一行	十錢宛	
雜誌	一冊	六錢 郵稅。五厘	（但府內無郵稅）
	十一冊	五拾八錢 郵稅。五錢	（同前）
定價	半年分	壹圓四拾三錢	府外は壹圓五拾六錢
	一年分	貳圓六拾錢	府外は貳圓八拾六錢

東京市麴町區下六番町六番地
發行所 **女學雜誌社**

編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三